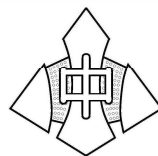


手をたずさえて

“KOHARADA WAY” 自分に打ちかて

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和2年6月23日(火)発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

「人はなぜ学ぶのか？」 吉田松陰の言葉

学校が再開し、各教科の授業も進み、7月6日(月)に実施される“定期テストⅠ”が間近になってきた今、生徒のみんなには、「人はなぜ学ぶのか？」ということについて考えてほしいと思います。

江戸時代末期、長州藩の「松下村塾」において、討幕運動を推し進めた久坂玄端や高杉晋作、明治になり初代内閣総理大臣となった伊藤博文、陸軍の基礎を築いた山県有朋など、明治維新を成し遂げた中心的な人物をわずか1～2年という短い期間で教えた吉田松陰(よしだ しょういん)。

松陰は、「人はなぜ学ぶのか？」という問いに対して、こう答えました。

凡そ学をなすの要は己が為にするあり。己が為にするは君子の学なり。
人の為にするは小人の学なり。

(何のために学ぶのかといえば、自分を磨くためです。自分のためにする学びこそが、善い人間を志す人の学びです。人に褒められるために学ぶことは、とるに足らない人の学びです。)

さらに松陰は、こう続けました。

学というものは進まざれば必ず退く。故に日に進み、月に漸(す)み、遂(つい)に死すとも悔ゆることなくして、初めて学というべし。

(学ぶということは、続けていないと必ず後退してしまいます。毎日続けていくことで、学びを体にしみこませていき、死ぬ時になって後悔がないようにしなければ、学んだとは言えません。)

松陰は、人が学ぶのは、人に評価をしてもらうためでなく、自分を磨くためであり、継続しなければ意味がない、と言っています。

「自分を磨くために学ぶ」という答えは、「何のために学ぶのか？」を超えて「人は何のために生きるのか？」という問いの答えにも繋がっているようにも思えます。つまり、「生きること」＝「学ぶこと」になるということです。そして、「自分を磨く」ために、今必要なことは何かと考えることで、「自分に足りないもの」や「自分に本当に必要なもの」が見えてくるはずです。

今の自分に足りないものは何か、本当に必要なものは何か、ということをよく考え、自分を磨いていく。毎日の授業、生徒会活動、部活動、そして人間関係づくり等、様々な場面において、自分を磨くために学び続けていくこと。定期テストへの本格的準備に入る今、「今、なぜ学ぶのか？」という問いに*真摯(しんし)な気持ちで向き合っていくことがとても大切だと考えています。 ※ 真摯(しんし)：まじめでひたむきなさま



松陰の肖像画と銅像

今、大切にすべきこと

1 目的意識の明確化

中学校卒業後の見通しとして、「何のための進学なのか」、「高校等で何をするのか」という、目的意識についてしっかりと考え、自分の言葉や文章で明確に表現できるようにする。

2 学力を下から支えるものの重要性

生活のリズム、食事、睡眠、健康管理、携帯・スマホ・ゲームの使用、さらには、あいさつ、善悪のしっかりした判断に基づく行動など、学力を下から支える様々なものをよりよいものにしていきたい。

3 進路実現に向けて踏まえておきたいこと

高校入試はひとつのゴールラインであっても、最終ゴールではない。その先の生き方を見据えとともに、途中で目標や計画の変更を余儀なくされることもある。将来は変わっていい、迷っていい、悩んでいい、ということ。目標・計画を見直し軌道修正していく力、リカバリー(回復)する力、想定外のことにはひるまず立ち向かう前向きでポジティブ(前向き)な気持ちや姿勢が重要になる。

“書くこと”と“繰り返すこと”を重視して家庭学習を！



臨時休業期間中の1年生の登校日に、学習担当の二宮先生からこんな話がありました。受験勉強において、いろいろな問題集に手を出すよりも、1冊の問題集を徹底的に繰り返してやるの方が成績の伸びに繋がる。1冊の問題集に集中し、答えを覚えるくらい3回以上繰り返して取り組む。そうすると、問題集の厚さは元の2、3倍くらいに厚くなるという話でした。臨時休業中には、全生徒に1冊の問題集とノートを配付したわけですが、そんな取り組みを実行できた人はいたでしょうか？

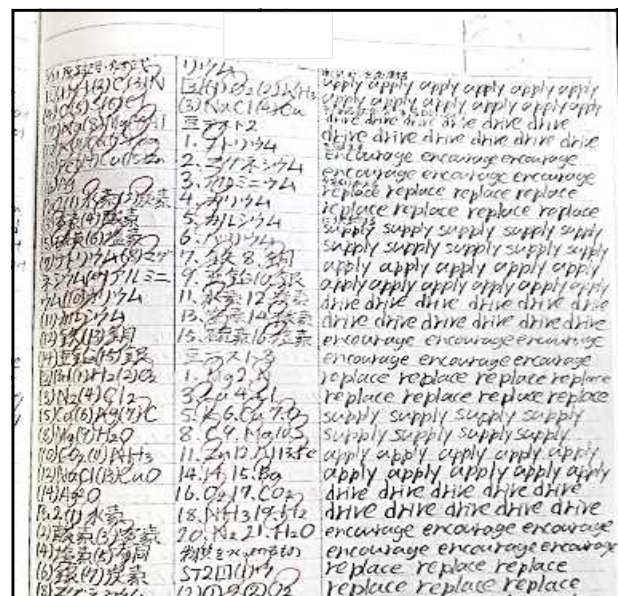
さて、7月6日(月)には、今年度最初の定期テストが実施されます。1年生にとっては初体験となる定期テストです。先週は、学年集会等でテストの意義やテストへの取り組みについて、具体的な指導がありました。2・3年生もテストへの取り組みを再度確認してください。定期テストの対策は、何と言っても教科書とノート、ワークブック等を使って徹底的に復習することです。漢字、英単語、重要語句等は何度も何度も書いて覚える。計算問題等は自力解決できるまで何度も解いてみる。まずは時間をかけ、“書くこと”と“繰り返すこと”を重視した学習を実行することが大切です。定期テストの結果はもちろん成績に反映されます。しかしながら、覚えておいてほしいことは、定期テストの積み重ねの延長線上に高校入試があるということです。だからこそ、1回1回のテストを大切にしてほしいと思います。

校長先生からの宿題より

私が臨時休業期間中に一番考えたのは、自分の将来についてです。特に高校受験についてです。私のこの休みはとても良いチャンスだったと考えていて、授業やテストがない分、自分のやりたい内容の勉強をすることができました。2年生のときに曖昧になっていた単元や今までに習った勉強の応用問題も解くことができ、入試に向けてのいい勉強にもなりました。さらに、2年生の3学期は学校生活への疲れを感じていたので、体を休める良い機会でもありました。おかげでこれから頑張るためのやる気にもつながりました。テレビなどを見ていると、コロナウイルスにより困っている人が大勢いるという報道がよく流れています。確かに例年どおりにはいかず大変なことも多いと思います。しかし、私個人としては、体を休めることができ、今までにやろうと思っていたこともできなかったことに挑戦することができ、さらにさまざまな事をより深く考えたり、新たな視点で物事を考えることもできるようになって、自分をより成長させた有意義な休みだったなと思っています。この休みにより得た知識や考え方は自分の将来に役立つと思うので、無駄な休みではなかったと考えています。(3年女子)

まさに“ピンチをチャンスに変えた”点と有意義だったと言い切れる点がすばらしいと思います。強い意志があったからこそ達成できたと言えます。

みんなが毎日取り組んでいる「自主学習ノート」。何名かのものを見せてもらいました。その1つを紹介しましょう。一つの学習方法として参考にしてください。



2年女子生徒の自主学習ノートです。豆テストの解答や英単語の練習に活用されていました。“書くこと”を重視して、ノートをめいっぱい使った徹底した学習の足跡がよく見てとれます。

定期テストに向けて、より実践的な取り組みが必要になる

(1) 学校では・・

- ① 1時間1時間の授業を大切にします。
- ② 疑問点は教師に質問し解決する。
- ③ テストの受け方を再確認し実行する。(入試の鉄則『解ける問題から解く』、つまらないミスがないかどうかを見直す習慣、最後まであきらめない、文字・数字をていねいに書くなど)

(2) 家庭では・・

- ① 学習量を増やす。必然的に学習時間が増えていかなければならない。学習中心の生活にする。
- ② 「書くこと」を重視する。(書いて覚える。文章で説明したり表現したりすること。)